

あなたの挑戦を支える リハビリテーションの**力**

利用者様
の
軌跡

できないと思わない
できると信じる
できることを探そう 明日に向かって

私たちは法人理念に基づきリハビリテーションを提供していきます



リハビリテーションの 目的と特徴

- リハビリテーションは、医師の指示のもと、専門職による機能訓練をメインに受けられ、身体機能の維持や回復を目的としています。
- **通所リハビリテーション**では理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による個別リハビリのほか、マシントレーニングや加圧マッサージ・脳力トレーニングなどを随時提供しています。また、自主トレーニングのメニューを作成することもできます。
- 施設だけでなく、ご自宅でもしっかりリハビリをできるように**訪問リハビリテーション**事業所も運営しております。
- 平和の杜は幅広いニーズに対応し、皆さまをご支援いたします。

次のページから二人の利用者さまの軌跡をご紹介します。

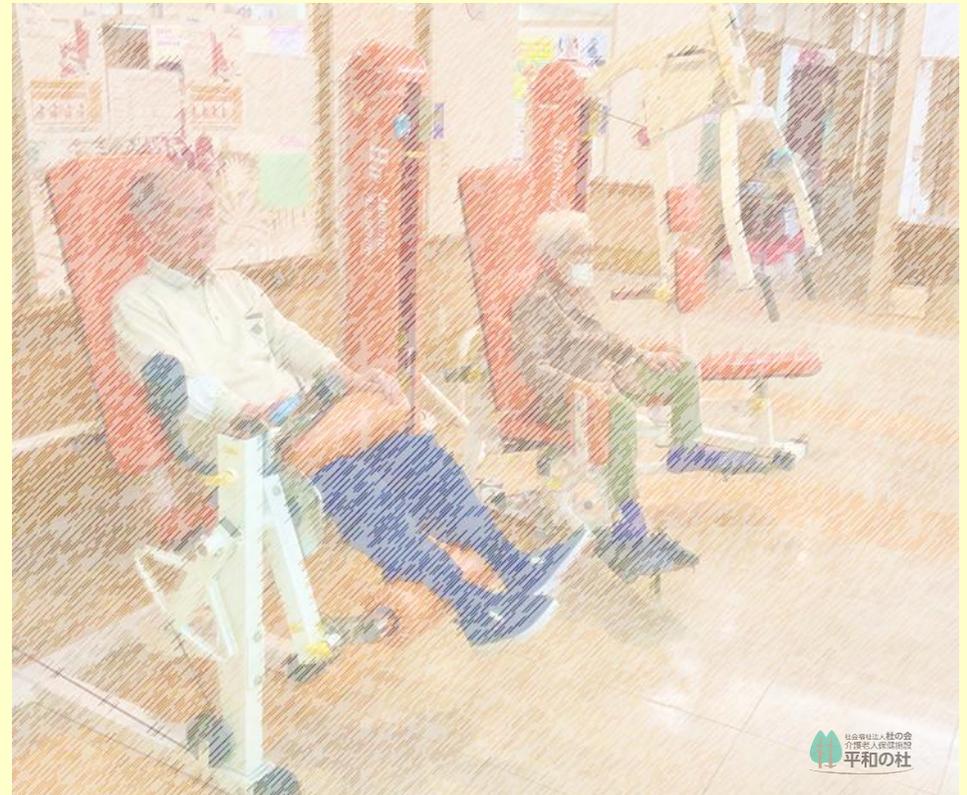
(1) リハビリ開始前の状態



(2) リハビリの内容と期間



(3) リハビリの成果



(1) リハビリ開始前の状態

K.T様 97歳男性

転倒・転落を繰り返し、内臓疾患の治療入院により
ADL (日常生活動作)低下しその改善を目的に利用開始しました

- ✓ ハムストリングス（足腰の筋力）が低下し、疲れやすく、起き上がりが一人ではできません。
- ✓ 歩行は平行棒の中で歩く程度で、すぐに疲労が見られます。
- ✓ 車椅子からベッドへの移動時、腰がほとんど浮かず、移動がうまくできません。
- ✓ 靴を履こうとすると、上半身が後ろに倒れそうになり、介助が必要です。



担当理学療法士とK.T様

(2) リハビリの内容と期間

- ✓ 週に1回のペースで利用を始めました。
- ✓ ハムストリングスの柔軟性改善や膝周りの筋力強化、体力向上を目指しつつ、立つ時の動きが安定するようにリハビリをスタートしました。
- ✓ 上半身がブレないように、体幹の筋力を高めることを目標にしています。特に立った時に膝がしっかり伸びるように、ハムストリングスのストレッチや、大腿部を中心に筋力トレーニングを行い、正しい姿勢を意識するようにお声掛けしています。
- ✓ 疲れやすさがあるため、こまめに本人と確認を取りながら、血圧や酸素飽和度をチェックし、無理のないよう休憩を挟みながら運動を進めています。



立位場面



酸素飽和度測定中



筋力向上と動作安定を目指します

(3) リハビリの成果 (リハビリ開始から3か月経過)

- ✓ 約1か月後、歩行時の疲労感が軽減し、歩行器を使用した歩行練習を開始しました。
- ✓ 60mを超える廊下を少しずつ距離を伸ばしながら、歩行できるようになりました。
- ✓ 太ももの裏側の筋肉の短縮が改善され、膝周囲の筋力向上が見られました。
- ✓ 立位姿勢で膝が伸びるようになりました。
- ✓ 車椅子からベッドへの移乗時に、腰がしっかり上がるようになりました。
- ✓ お腹や背中筋力の向上により、起き上がり動作を一人で行えるようになり、靴の脱ぎ履きも安定しました。



歩行器を使用した歩行練習
ハムストリングスの筋力向上がみられた

(1) リハビリ開始前の状態

S.H様89歳男性

脳梗塞を発症し、**失語症状**が残存

発症6か月後、当通所リハビリテーション利用開始

理解する能力と表出する能力の向上を図ることを目標としました

- ✓ **理解力**：聞いたり読んだりすることは、単語レベルでは問題なく理解できますが、短い文章になると理解が難しくなることがあります。伝えたいことは、簡単にわかりやすく話す必要があります。
- ✓ **表現力**：話すときは、単語を使うことが多く、短い文章で話すときには言葉を間違えやすいです。書くことに関しては、自分の名前は書けますが、それ以外はうまく書けないようです。



S.H様と担当言語聴覚士

(2) リハビリの内容と期間

- ✓ **理解力の訓練**：絵カードを使って指示に従う練習を行います。6枚の絵カードの中から、指示された絵を選んでもらいます。（例：「〇〇〇はどれですか？指をさしてください」）
- ✓ **話す力の訓練**：物の名前を答える練習や、情景画の説明を行います。絵カードに描かれたものの名前を答えたり、様々な状況を描いた絵を見て、「この人は何をしているか？」や「ここはどこか？」などを考えて答えてもらいます。
- ✓ **書く力の訓練**：ノートにご自身の名前や日付を練習をします。単語の書き写しを行います。また、ご自宅で学習できるように、毎回プリントをお渡ししています。



理解力の訓練



話す力の訓練



書く力の訓練

(3) リハビリの成果 (リハビリ開始から12か月経過※1)

- ✓ 約1年間の標準失語症検査結果と比較すると、短い文章を聴き理解する力や物の名前を答える力が、正解率で約2割改善しました。
- ✓ ただし、他の項目では、正解率に大きな変化はなく、能力はほぼ維持されている状態です。
- ✓ 日常生活では、単語レベルでのやり取りは問題なく行えており、言い間違いがあっても、自分で修正し、しっかりと伝えられるようになってきています。
- ✓ 理解力に関しては、短く簡潔に伝えると、内容をしっかり理解できるようになりました。
- ✓ 総じて、失語症の後遺症は残っていますが、理解力と表現力は、口頭でのやり取りが可能なレベルにまで改善しています。



リハビリに意欲を持って取り組まれているS.H様

※1：文献によると回復した言語機能は脆弱で、機能低下しやすい症例も存在するので、失語症の訓練は長い期間必要なケースもあります。